

第11回全国書写書道総合大会

第11回総合大会指定課題・解説一覧

過去課題から厳選

コロナ禍に耐える日々が続いていますが社会活動に活発化の兆しが見えてきました。防疫に十分注意しながらも、希望に満ちて走り出そうではありませんか。

まずはトライしていただくことが大事です。教場の指導者の負担を減らすためにも、これまでに手がけていただいた過去問の中から好評だった指定課題を選びました。

課題についての解説が欲しい課題は解説一覧にまとめました。一覧は、指導者の方を対象に作成されています。コンクールの練習をする中で、指導者と生徒さんの会話が弾むことを願っています。

表記上の注意

- ◎ 漢字は学習指導要領の学年別漢字配当に従い、年度前半大会であることから前学年までの漢字使用を原則としています。
- ◎ 漢字・仮名遣い、句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。
- ◎ 用紙の大きさ、氏名の書き方などは、大会実施要項の出品料等をまとめた出品規定表にあります。ご参照ください。

参考手本、評価の観点

参考手本（毛筆はA3判、硬筆は共通清書用紙による原寸大）は希望者に発売します。書文協ホームページにも掲載され、印刷は自由です。手本通りに書かなくてはいけないということではありません。また、流派を超えた審査が書文協の理念です。止め、はね、払いや点画など、身に付けなくてはいけないルール、技術をしっかりと手本から読み取ってください。指定された大きさの用紙に書く際の文字の配置、配列も手本を参考にしてください。技法、ルールのポイントを指定課題文言にそってまとめた「評価の観点」も、書文協ホームページ上で発表されますので、参考にしてください。参考手本・用紙は、幼稚園・保育園・学校単位での応募は、応募者1人につき参考手本と清書用紙2枚を無料配布いたします。送料はご負担下さい。

作品化奨励に表装（毛筆）、記念アルバム（硬筆）製作発売

書文協では書写書道作品の作品（展示）化を奨励しています。毛筆でも硬筆でも、人に鑑賞してもらうことが書の楽しみの一つとなります。また、展示作品化して残すことは、書の学びの軌跡となり、継続する力の原動力となるでしょう。

応募作品は原則として書文協に帰属しますが、ご注文いただくことで記念アルバム（本人の作品・写真、賞状のレプリカを配した特製）をお送りします。複数の作品化希望の場合は、2冊目からは複写作品となります。掛軸には紙表装と本表装があります。価格、申込締め切り日などは、結果発表の際にお知らせします。

ひらがな・かきかたコンクール〈指定課題〉

- ◆ 年少・年中 とり
- ◆ 年長 つくし
- ◆ 小1 ひろいそら
- ◆ 小2 さかあがりを
れんしゅうす
る。
- ◆ 小3 たなばたに
よぞらみあげて
ねがいごと。

全国学生書写書道展〈指定課題〉

- ◆ 年少・中 つ
- ◆ 年長 つり
- ◆ 小1 だいち
- ◆ 小2 そよかぜ
- ◆ 小3 あまの川
- ◆ 小4 海へ行く
- ◆ 小5 光る大地
- ◆ 小6 書字文化
- ◆ 中1 宇宙旅行
- ◆ 中2 生命の尊重
- ◆ 中3 雲海の眺望
- ◆ 高校 漢字 初心不可忘
仮名 荒海や佐渡に横たふ天の川
- ◆ 大学 漢字 遠上寒山石径斜 白雲生処有人家
仮名 金色のちひさきとりの形して 銀杏ちるなり夕日の岡に

全国硬筆コンクール〈指定課題〉

- ◆ 年少・中 つきみ
- ◆ 年長 かぐやひめ
- ◆ 小1 おかあさんの
むねは なん
かあったかい

- ◆ 小2 青空に
 ゆびで字をか
 くあきのくれ
- ◆ 小3 山のあなたの空
 遠く
 「幸」住むと
 人のいう
- ◆ 小4 君がため
 春の野に出でて
 わかなつむ
 わが衣手に
 雪はふりつつ
- ◆ 小5 いつかひとりで旅に出る
 少し大きくなるために
 もっと自分を知るために
 そして必ず帰るのは心の古里
 私の家族
- ◆ 小6 小諸なる古城のほとり
 雲白く遊子悲しむ
 緑なすはこべはもえず
 若草もしくによしなし
- ◆ 中学 兎追いしかの山小鮒釣りしかの川
 夢は今もめぐりて
 わすれがたき故郷
 如何にいます父母恙なしや友がき
 雨に風につけても
 思いいずる故郷
- ◆ 高大一般 爽やかな精神と揺れ動く魂が
 同居する青春。行く道を憂え
 ず熱く謳う朱夏。経験を糧に
 知恵積み上げてゆく白秋。幾多
 の変遷に厳しく磨かれて、今美
 しき玄冬。人生はみな一編の
 物語になる。

課 題 解 説

< 学生書写書道展 >

◆ 年少・中、年長

ともにひらがなですが、書文協が設けた「ひらがな難易度表」に基づき、A・B・Cの3ランクのうち、Aランクから選びました。

◆高校漢字

初心不可忘（しょしんわするべからず）は、室町時代の猿楽師、世阿弥（ぜあみ）の著「花鏡」にあります。自分の芸が上達したかどうかを判断するためには、始めの頃の未熟さを忘れてはいけない、などと説いています。猿楽は後に狂言と共に能楽と呼ばれるようになりました。

◆高校仮名



松尾芭蕉

江戸時代前期に活躍し、後に「俳聖」と呼ばれる松尾芭蕉の句。紀行文として有名な「おくのほそ道」の途中に新潟県出雲崎で詠んだ句とされています。俳句に必要な季語は天の川で秋の季語です。

荒れ狂う日本海の向こうには佐渡島が見える。夜空を仰ぎ見ると美しい天の川が佐渡の方へと大きく横たわっている、と壮大な情景が見える句ですね。

<全国硬筆コンクール>

◆年長

かぐやひめ（姫）は、平安時代前期に成立した日本最古の物語「竹取物語」登場人物。光り輝く竹の中で見つけられた姫は類まれな絶世の美人に。しかし、帝の求愛にも関わらず、満月の夜、月の世界に帰っていくのでした。現代でも通用するSFファンタジー（空想物語）です。



◆小1

小林一茶の句。松尾芭蕉、与謝蕪村と並ぶ江戸時代を代表する俳諧師の一人。

◆小3

19世紀末から20世紀初めに活躍したドイツのロマン派詩人、カール・ブッセの詩を上田敏が訳し「海調音」に収めました。ああ、われ人と尋（と）め行きて涙さしぐみかえりきぬ・・・と続きます。

◆小4

9世紀後期の天皇である光孝天皇の作。百人一首に選ばれています。分かり易い素直な和歌です。若菜は、春に生えてきた食用や薬用になる草のことです。「春の七草」のセリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）などが代表的です。

◆小6

島崎藤村の代表的な詩の一部です。<小諸の城址のほとりに一人愁い悲しむ旅人がいる。まだ繁蕪（はこべ）も色づかず若草も敷くこともかなわない>と。旅人を遊子と表現しています。この詩は藤村自身の事。白い雲が浮く城址を眺めて、故郷に思いをはせています。

明治34年発行の藤村詩文集「落梅集」に収められました。しろがねの衾（ふすま）の岡辺 日に溶（と）けて淡雪（あわゆき）流る（白雪でおおわれた野辺に淡雪が日にとけて流れている）・・・と続いています。



◆中学

大正3年（1914年）、かつての文部省唱歌（小学6年用）とされた「望郷」の一部です。高野辰之作詞・岡野貞一作曲。3番まであるうちの1,2番です。故郷（ふるさと）、恙なしや（つがなしや=無事だろうか、の意味）と読んでください。